

2020年度 シラバス

科目名	グルーミングⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。 トレーナー＆アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。							
授業の一般目標	基本グルーミング・ベーシッククリッピングに関する技術を修得し、目標時間(2時間～2時間30分)内に仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単なベーシック・クリッピング方法の説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本の手入れ方法の必要性について、顧客等に説明ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・ベーシッククリッピング技術を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
☐ 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級(トリマーコース)、3級(トレーナー・アドバイザーコース) 資格の取得							
授業計画(全体)								
基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業開始について 自己紹介 美容用具の配布・確認 美容実習室の設備・備品について		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 自己紹介(氏名・志望選択コース・飼養動物種のリサーチ) 美容用具の配布と種類の確認 美容実習室内の設備・備品・シャンプー・リンス剤の希釈等についての注意事項					
第2回	美容実習授業の一日の流れ、美容実習授業時の注意点		実習時の服装・態度・準備物・注意事項を覚え、実習授業時の一日の流れを覚える					
第3回	ドッグ・ショーについて、研修の事前学習		JKCドッグ・ショーの進行方法・審査方法、見学研修前に事前学習、トーナメント方式、年齢別クラス区分、マナー等、美容実習室内の設備使用について					
第4回	モデル・グルーミング、実技 短毛種(1)		ベーシック実習のモデルグルーミング、チワワ(4頭…2教室に分かれる)教員仕上げ、チワワ(スムース・ヘード)、学生2名で1頭仕上げ					
第5回	実技 中毛種(1)		チワワ(ロング・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ					
第6回	実技 その他の短毛種(1)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第7回	実技 短毛種(2)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第8回	実技 中毛種(2)		チワワ(ロング・ヘード)、ダックスフンド(ロング・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第9回	実技 その他の中毛種(1)		ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第10回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬		フラット・コートedd・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第11回	実技 短毛種(3)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(8頭)					
第12回	実技 中毛種(3)		チワワ(ロング・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)					
第13回	実技 その他の短毛種(2)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)			確認テスト		
第14回	実技 短毛種(4)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(10頭)			確認テスト		
第15回	実技 中毛種(4)		チワワ(ロング・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)					
第16回	実技 その他の中毛種(2)		ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭) 【トリマーコース】レスズンドッグ(シーズータイプ)のブラッシング①					
第17回	実技 その他の中毛種(2) 大型犬		フラット・コートedd・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭) 【トリマーコース】レスズンドッグ(シーズータイプ)のブラッシング②					
第18回	実技 短毛種(5)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(15頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第19回	実技 中毛種(5)		チワワ(ロング・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第20回	実技 その他の短毛種(3)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第21回	紙粘土細工(1) 実技 短毛種(6)		マルチーズのサマーカットを紙粘土で形作る、チワワ(スムース・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第22回	実技 中毛種(6)		チワワ(ロング・ヘード)・ダックスフンド(ロング・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(20頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット):学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第23回	実技 その他の中毛種(3) レスズンドッグ演習(1)		ボメラニアン(耳先、足回り、第1関節の裏側、尾の付け根、尻部、アンダーライン):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭) 【トリマーコース】レスズンドッグ(シーズータイプ)でサマーカットを形作る<右半分>					
第24回	実技 短毛種(7)		チワワ(スムース・ヘード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(3頭)					
第25回	実技 中毛種(7)		チワワ(ロング・ヘード)・ダックスフンド(ロング・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(15頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(5頭)					
第26回	実技 その他の中毛種(3) 大型犬		フラット・コートedd・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭) 【トリマーコース】マルチーズ、シーズー(サマーカット) 学生2名で1頭仕上げ(5頭)					
第27回	実技 中・短毛種(8)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭(チワワ・ダックス・パピヨン・ボメ等)仕上げテスト(19頭)					
第28回	実技 中・短毛種(9)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭(チワワ・ダックス・パピヨン・ボメ等)仕上げテスト(19頭)			実技テスト(1)		
第29回	実技 中・短毛種(10)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭(チワワ・ダックス・パピヨン・ボメ等)仕上げテスト(19頭)			実技テスト(3)		
第30回	実技 中・短毛種(11)		チワワ(スムース・ヘード) 学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭(チワワ・ダックス・パピヨン・ボメ等)仕上げテスト(19頭)			実技テスト(4)		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与(補助:井田/岩井/小山/谷奥/高浪/矢田)			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

2020年度 シラバス

科目名	グルーミングⅡ			単位数	6	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	通期	
区分	選択必修(トレーナー分野)			開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。 JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
授業の一般目標	指定時間(1時間～1時間30分)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げるようになる。 必要に応じて、1日1人2頭のベーシックモデル犬を仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、プロが教えるベスト・トリミング(トリマーの基礎知識)、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単な基本トリミング(整毛・カット)方法の説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本の手入れ方法(無駄毛処理含む)の必要性について、顧客等の説明時に活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・簡単なトリミング方法を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。 トレーナー＆アドバイザーコースに関しては、AAV・サロントリマー3級資格を取得。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	授業開始について 実技 短毛種(1)		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ					
第2回	実技 中毛種(1)		チワワ(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ					
第3回	実技 その他の短毛種(1)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(1頭)					
第4回	実技 短毛種(2)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(1頭)					
第5回	実技 中毛種(2)		チワワ(ロング・ヘアード)、ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(1頭)					
第6回	実技 その他の中毛種(1)		ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(1頭)					
第7回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬		フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(2頭)					
第8回	実技 短毛種(3)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(2頭)					
第9回	実技 中毛種(3)		チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(2頭)					
第10回	実技 その他の短毛種(2)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第11回	実技 短毛種(4)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第12回	実技 中毛種(4)		チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第13回	実技 その他の中毛種(2)		ペキニーズ、狆、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)					
第14回	実技 その他の中毛種(2) 大型犬		フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)				確認テスト	
第15回	実技 短毛種(5)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(4頭)				確認テスト	
第16回	実技 中毛種(5)		チワワ(ロング・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(4頭)					
第17回	実技 その他の短毛種(3)		柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(4頭)					
第18回	紙粘土細工(2)		好きな犬種を紙粘土で形作る					
第19回	実技 短毛種(6)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第20回	実技 中毛種(6)		チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第21回	実技 その他の中毛種(3)		ポメラニアン(耳先、足回り、第1関節の裏側、尾の付け根、尻部、アンダーライン) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)					
第22回	実技 短毛種(7)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(6頭)					
第23回	実技 中毛種(7)		チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(6頭)					
第24回	実技 その他の中毛種(3) 大型犬		フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー・シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等、学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(7頭)					
第25回	実技 短毛種(8)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(7頭)					
第26回	実技 中毛種(8)		チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)					
第27回	実技 短毛種(9)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)				トレーナーコース アドバイザーコース AAV(全動専) サロントリマー3級資格試験	
第28回	実技 短毛種(10)		チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(9頭)					
第29回	実技 中毛種(8)		チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)				実技確認テスト	
第30回	実技 中毛種(8)		チワワ(ロング・ヘアード)・ダックスフンド(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)				実技確認テスト	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

2020年度 シラバス

科目名	美容Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットティング(カット技術・整毛技術)方法を覚え、技術方法を身に付ける。							
授業の一般目標	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・クリッピング・カットティング技術の修得し、目標時間内に仕上げる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の取得へ繋げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットティング方法を覚え、技術方法の実践ができる。							
☐ 思考・判断の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットティング方法を覚え、各分野について活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットティング方法を覚え、関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットティング方法を覚え、その個体が健康的で適正な飼養管理を行うことができる。							
☐ 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級 及び JKCTリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)								
基本的なグルーミング・カットティング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるようにし、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	授業開始について 実技 長毛種カット(1)		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)					
第2回	実技 長毛種カット(2)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)					
第3回	実技 長毛種カット(3)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭)					
第4回	実技 長毛種カット(4)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭) LESSンドッグ(シーザー) ブラッシング					
第5回	実技 長毛種カット(5)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) LESSンドッグ(シーザー) サマーカット①					
第6回	実技 長毛種カット(6)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) LESSンドッグ(シーザー) サマーカット②					
第7回	実技 長毛種カット(7)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭)					
第8回	実技 長毛種カット(8)		紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット 骨組み>					
第9回	実技 長毛種カット(9)		紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット>					
第10回	実技 長毛種カット(10)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)					
第11回	実技 長毛種カット(11)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)					
第12回	実技 長毛種カット(12)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)					
第13回	実技 長毛種カット(13)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) LESSン・ドッグ 仕上げテスト(18名)				LESSンドッグ 仕上げテスト	
第14回	実技 長毛種カット(14)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) LESSン・ドッグ 仕上げテスト(18名)				LESSンドッグ 仕上げテスト	
第15回	実技 長毛種カット(15)		マルチーズ・シーザー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) LESSン・ドッグ 仕上げテスト(18名)				LESSンドッグ 仕上げテスト	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

2020年度 シラバス

科目名	美容Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(トリマー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各現場で通用するトリミング技術方法を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない。 時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
授業の一般目標	指定時間(1時間30分～2時間)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、技術方法の実践ができる。							
☐ 思考・判断の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、個体が健康的な飼養管理が行えるように活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、関心を広げ、より高度な専門分野へ繋ぐていくことができる。							
☐ 態度の観点	各犬種の専門的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、その個体が健康的で適正な飼養管理を行うことができる。							
☐ 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級 及び JKCTリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)								
専門的なグルーミング・カットング知識と技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるようにする。 必要に応じて顧客に的確なアドバイス・指導ができる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格を取得。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	授業開始について 実技(ブードル種 1)		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ブードル種の足先(趾先)・尾軸の刈り方を覚える					
第2回	実技(ブードル種 2)		ブードル種の顔部(Vネック)の刈り方を覚える レッスンドッグ(ブードル) ブラッシング					
第3回	実技(ブードル種 3)		ブードル種の顔部(Uネック)の刈り方を覚える レッスンドッグ(ブードル) ケネル&ラム・クリップ カット					
第4回	実技(ブードル種 4)		指(趾)止めカットの方法を覚える					
第5回	実技(ブードル種 5)		ティペアカットの体のトリミングを覚える					
第6回	実技(ブードル種 6)		ティペアカットの体・顔のトリミングを覚える					
第7回	実技(ブードル種 7)		ティペアカットの全体のシルエットを覚える					
第8回	実技(AMコッカー種 1)		Aコッカーの顔の刈り方を覚える					
第9回	実技(AMコッカー種 2)		Aコッカーの全体のトリミングを理解する					
第10回	紙粘土細工(2)		ブードル種 ケネル&ラムクリップを紙粘土で形作る					
第11回	実技(ポメラニアン 1)		ポメラニアンのスタンダード・スタイルのカット方法を覚える					
第12回	実技(ポメラニアン 2)		ポメラニアンの柴犬・スタイルのカット方法を覚える					
第13回	実技(ポメラニアン 3)		ポメラニアンのライオン・スタイルのカット方法を覚える					
第14回	実技(ブードル種 8)		ケネル&ラムの前肢・後肢の作り方を覚える					
第15回	実技(ブードル種 9)		ケネル&ラムの頭部・頸の作り方を覚える					
第16回	実技(ブードル種 10)		ケネル&ラムの全体的なバランスの作り方(長所・短所を見極める)を覚える					
第17回	実技(JKC選抜テスト)		レッスン・ドッグ ケネル&ラム テスト			選抜テスト		
第18回	実技(JKC選抜テスト)		レッスン・ドッグ ケネル&ラム テスト			選抜テスト		
第19回	実技(シュナウザー種 1)		シュナウザーの顔の刈り方を覚える					
第20回	実技(シュナウザー種 2)		シュナウザーの全体のトリミングを覚える					
第21回	実技(ビション 1)		ビションフリーゼの顔のトリミングを覚える					
第22回	実技(ビション 2)		ビションフリーゼの全体のトリミングを覚える					
第23回	実技(ブードル種 11)		紙粘土作成 ブードル ケネル&ラム・クリップ 骨組み 紙粘土作成 ブードル ケネル&ラム・クリップ					
第24回	実技(ブードル種 12)		ムスタッシュの作り方・ベルトの入れ方を覚える					
第25回	実技(ブードル種 13)		チャンネルの入れ方を覚える					
第26回	実技(ブードル種 14)		バンドの入れ方を覚える			AAVサロントリマー1級ライセンス 試験(実技・筆記)		
第27回	実技(テリア種 1)		ブラッキングの方法を覚える					
第28回	実技(テリア種 2)		ウエスティーの顔のトリミングを覚える			JKCTリマーC級ライセンス試験(実技・筆記)		
第29回	実技(テリア種 3)		ウエスティーの全体のトリミングを覚える			実技確認テスト		
第30回	実技(ブードル種 15)		ブードル種のデザイン・カット(応用)を覚える			実技確認テスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			

2020年度 シラバス

科目名	家庭犬訓練Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬とのふれ合いから、基本となる家庭飼養で必要なしつけ方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。							
授業の一般目標	病院、ショップで必要な基本的なしつけの実践ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や概要説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	主に家庭犬が健康的に管理できる基本的なしつけの知識を身に付け、顧客等に説明ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	主に家庭犬の日常飼養上で必要な基本的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな・適正な飼養管理が行え、関係性を保つことができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
家庭犬を飼養管理していく上で必要な基本的なしつけに関する知識を修得し、犬の習性・犬種による性格・扱い方を覚え、飼い主とその個体が快適な共存が保てるようにアドバイスができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業開始について 初対面のワンちゃんとの接し方		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 モデル犬との接し方、実習中の注意事項(事故予防)、授業・成績について 初めて会うにはいけないこと					
第2回	訓練からみた犬の起源 (1) ハウストレーニング		訓練からみた犬の起源(家畜化・共生・進化) リードの扱い方とカラーの選び方、 ケージへの出し入れ方法を覚える					
第3回	訓練からみた犬の起源 (2) アイコンタクト(1)		野生から家畜化へ Yesの使い方、アイコンタクト(ステップ1)を覚える					
第4回	訓練からみた犬の起源 (3) アイコンタクト(2)		家畜化・共生・進化について アイコンタクト(ステップ2, 3)を覚える					
第5回	犬の学習(1)		観察学習、古典的条件づけについて トイレトレーニング、視符の使い方					
第6回	犬の学習(2)		道具的条件づけについて① ルアートレーニング					
第7回	犬の学習(3)		道具的条件づけについて② リードの扱い方					
第8回	犬の感覚(1)		嗅覚について ウェイトの練習					
第9回	犬の感覚(2)		視覚について スタンド・ウェイトの練習					
第10回	犬の感覚(3)		聴覚・味覚について ドアの出入り練習					
第11回	犬の感覚(4)		触覚について カムの練習					
第12回	犬の先天的な能力(1)		ボディー・ランゲージについて 犬の歩様について					
第13回	犬の先天的な能力(2)		カーミングシグナルについて 復習			試験範囲説明		
第14回	復習、試験実施		復習、試験実施			単位認定試験		
第15回	授業を終えて		試験の解説			試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							－	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	小泉 秀明			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

2020年度 シラバス

科目名	家庭犬訓練Ⅱ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必修(トレーナー分野)		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2年次からの専門的なコース授業開始に向けて、犬種を熟知し自分に相応するパートナーモデル犬種を見極める。 訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える 1頭以上のモデル犬に訓練を入れ、JKC競技会に出場する。 犬を飼養する意義を考え、自分に合ったパートナーモデル犬を決定し、トレーナーとの絆を深めながら基本的なコントロール方法を覚え身に付ける。							
授業の一般目標	2年次からの授業をスムーズに移行できるパートナーを選び、必要な訓練の実践ができる。 JKC訓練競技会出場と、CD1Sクラスの訓練犬試験に合格する。 犬を飼養する人へ適切なアドバイスができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や服従方法等の概要説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	主に家庭犬が健康的に管理できる基本的なしつけや服従方法の知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	主に家庭犬の日常飼養上で必要な基本的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理が行え、関係性を保つことができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
家庭犬を飼養管理していく上で必要な基本的なしつけに関する知識を修得し、飼い主とその個体の信頼関係を築くサポートを行い、快適な共存が保てるようにできる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業開始について リードの扱い方(1)		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について リードの使い方、テンションのかけ方練習					
第2回	なぜ犬を飼うのか(1) リードの扱い方(2)		犬を飼うための準備(自分自身を振り返る①) リードワーク(張り方・緩め方)					
第3回	なぜ犬を飼うのか(2) 呼び出し(1)		本当に犬を飼えるのか(自分自身を振り返る②) 呼び戻し(リード使用)					
第4回	なぜ犬を飼うのか(3) 呼び出し(2)		犬を飼うための準備(犬を見極める)① 呼び戻し(ハンド・タッチ、リード無し)					
第5回	なぜ犬を飼うのか(4) 呼び出し(3)		犬を飼うための準備(犬を見極める)② 呼び戻し(難易度を上げる)					
第6回	成犬を家に迎え入れる キューについて(1)		成犬を家に迎え入れる準備 声・視・体符の使い方					
第7回	子犬を飼う前に(1) キューについて(2)		子犬選びと飼う時期について Yes・Noの使い方					
第8回	子犬を飼う前に(2) 校外学習 マテ(1)		子犬の入手先について 運動 マテの強化①					
第9回	子犬を飼う前に(3) マテ(2)		子犬の発達診断 マテの強化②					
第10回	子犬を飼う前に(4) クリッカー・トレーニング(1)		家庭犬の気質テストについて クリッカー・トレーニング(コンディショニング)					
第11回	子犬の学習の期限(1) クリッカー・トレーニング(2)		子犬を家に迎え入れる クリッカー・トレーニング(自発行動を引き出す)					
第12回	子犬の学習の期限(2) クリッカー・トレーニング(3)		人への社会化 クリッカー・トレーニング(ターゲット)					
第13回	パピーテスト		パピーテストを実際に行う					
第14回	小テスト 訓練競技会について(1)		小テスト実施 訓練競技会出場における心構え			確認テスト		
第15回	授業を終えて 訓練競技会について(2)		小テストの振り返り 訓練競技会における指導手と犬の関係					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物＆授業態度点Ⅱ0%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S):100点～90点
小テスト		○		◎	◎		40	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	小泉 秀明			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

2020年度 シラバス

科目名	水生生物Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。 癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。							
授業の一般目標	・魚類の分類・種類・飼養方法・水質管理を覚える。 ・水生生物特有の病気についてを覚える。 ・日本原産の観賞魚と海外原産の観賞魚の歴史についてを覚える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	観賞魚大図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	基本的な魚類についての分類・特徴・雌雄判別・飼養管理等の説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている人気魚類についての基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている人気魚類の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、ショップで扱われているメジャーな魚類について、正しい飼養管理・適正な環境作りができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	自己紹介・授業開始について アクアリウム		自己紹介、授業の必要性。概要・目的・目標についての説明・進め方 ペットとアクアリウム					
第2回	アクアリウムの語源		歴史・養魚から観賞魚へ 水槽飼育と自然とのサイクルについて					
第3回	魚の活動		生息環境と水 水合わせについて					
第4回	飼育方法、水槽について		水槽のサイクルとは、硬度と水温 飼育器具について 水槽・保温器具・照明器具・底床について					
第5回	観賞魚と食用魚		魚の外観と特徴・名称 体長と体高 観賞魚と食用魚の違い					
第6回	魚の臓器とその働き		皮膚と鱗 エラ 内臓器について					
第7回	魚の感覚器		色・形・距離・味覚・臭覚・振動・水流・水圧					
第8回	金魚について		金魚の種類と品種改良 飼育の歴史、日本での生産地					
第9回	錦鯉について		錦鯉の品種改良と歴史、選別と越冬 色揚げ・スビルリナ・鱗の優勢					
第10回	熱帯魚について(1) 魚の導入		コイの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 ナマズとドジョウの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 魚の導入、水合わせについて					
第11回	熱帯魚について(2)		カラシン目について ピラニア・テトラ・カラシン メダカの仲間 卵胎生魚性転換					
第12回	熱帯魚について(3)		シクリッドの仲間について 繁殖・分布・特徴 アナバス・汽水魚・古代魚について 戦魚・肺魚・乾眠					
第13回	試験範囲の復習		試験対策のポイント、復習			試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施		受験前の振り返り、受験			単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説		試験問題の答え合わせと解説			試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					40	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○		◎		10	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

2020年度 シラバス

科目名	水生生物Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義・実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択必修(アドバイザー分野)			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。							
授業の一般目標	2年次に1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げるための、水草の定着方法を学び、流木・アクセサリーを使用してのアレンジができるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	観賞魚大図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	アクアリウムに関する基本的なことが説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている魚類について、水質管理方法や飼養方法の専門的な知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている魚類の専門的な知識を身につけ、各アクアリウム設備に関心の広げ、管理ができる。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アクアリウムの実践に向けての専門的知識を覚え、各魚類の飼養方法を理解の上、アクアリウムの組み立てからレイアウト、管理が一人でできる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業開始について アクアリウムの基本		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 水槽の種類、ガラス水槽とアクリル水槽 短所と長所					
第2回	レイアウトの構成を考える		アクアリウムとアクアテラリウム レイアウト					
第3回	水草について(1)		水草の種類					
第4回	熱帯魚の性質・種類(1) 水槽レイアウト		熱帯魚の種類 水槽レイアウト					
第5回	熱帯魚の性質・種類(2) 水槽メンテナンス		熱帯魚の種類 水槽メンテナンス					
第6回	混泳ができる魚類について		異種魚の共存について					
第7回	ろ過器について 実践(実習)(1)		フィルター・装置の説明 ろ過器の種類・構造・方式 水槽メンテナンス					
第8回	水草について(2)		光合成について、水草を定着させる方法					
第9回	水草について(3) 水槽メンテナンス		水草のレイアウト 水槽メンテナンス					
第10回	実践(実習)(2)		水槽のレイアウトを構想する					
第11回	給餌について 水槽管理について 水槽メンテナンス		CB個体とWC個体について 水槽管理の応用 水槽メンテナンス					
第12回	1年生に学んだことのまとめ		1年間のまとめ					
第13回	まとめ、試験範囲の復習		まとめと野外観察(校外授業)②			試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施		受験前の振り返り、受験			単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説		試験問題の答え合わせと解説			試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					40	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○		◎		10	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

2020年度 シラバス

科目名	水生生物Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	選択必修(アドバイザー分野)		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。							
授業の一般目標	1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げる。 水草の定着から、流木・アクセサリを使用してのアレンジができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	観賞魚大図鑑							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	アクアリウムに関する専門的なことが説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている魚類について、水質管理方法や飼養方法・設営方法等の専門的な知識を身に付け、顧客等の説明時に活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている魚類の専門的な知識を身に付け、各魚類に適したアクアリウム設備に関心の広げ、レイアウト・日常に管理ができる。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アクアリウムの実践に向けての専門的知識を覚え、各魚類の飼養方法を理解の上、アクアリウムの組み立てからレイアウト、日常の管理が一人できる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	授業開始について アクアリウムの応用		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明 実習の進め方、前年水槽の清掃 水槽の種類、ガラス水槽とアクリル水槽 短所と長所					
第2回	レイアウトの全体構成・配置		アクアリウムとアクアテラリウム、レイアウト					
第3回	水草の取り扱い アクアセラピーとは		取り扱う水草の種類、前景・中景・後景、アクアセラピーについて					
第4回	熱帯魚の選択 混泳を考える		熱帯魚の組み合わせ					
第5回	実践(実習)(1)		水槽の組み立て①					
第6回	実践(実習)(2)		水槽の組み立て②					
第7回	実践(実習)(3)		フィルター・装置の設置					
第8回	買い付け		各水槽のレイアウトを考え自分達のイメージにあった熱帯魚と水草を購入する					
第9回	実践(実習)(4)		光合成と二酸化炭素、発酵式二酸化炭素について、水草のレイアウト					
第10回	実践(実習)(5)		水草の植え付け、ウィローモスの活着					
第11回	実践(実習)(6)		全体での水槽のレイアウト					
第12回	実践(実習)(7)		水槽の全体のイメージから、より近づける為にトリミングを行う					
第13回	実践(実習)(8)		水槽のメンテナンス①、食用魚について					
第14回	実践(実習)(9)		全体での水槽のレイアウト					
第15回	復習		熱帯魚と水草の名前の復習					
第16回	実践(実習)(10)		水槽のメンテナンス②、大型魚類について					
第17回	レイアウトの構成(1)		自分の水槽の始めからの立ち上げ					
第18回	レイアウトの構成(2)		レイアウト決めと水槽の組み立て準備					
第19回	実践(実習)(11)		水の管理、アクセサリー、流木の管理とレイアウト					
第20回	校外学習		アクアリウム・ショップ見学					
第21回	買い付け		各水槽のレイアウトを考え自分達のイメージにあった熱帯魚と水草を購入する					
第22回	実践(実習)(12)		全体での水槽のレイアウト①、魚の病気について					
第23回	実践(実習)(13)		全体での水槽のレイアウト②、魚の病気(治療と病魚薬)					
第24回	実践(実習)(14)		水槽のメンテナンス③					
第25回	実践(実習)(15)		水槽のメンテナンス④					
第26回	実践(実習)(16)		作品の仕上げ①					
第27回	実践(実習)(17)		作品の仕上げ②					
第28回	実践(実習)(18)		作品の維持と管理①					
第29回	実践(実習)(19)		作品の維持と管理②				単位認定試験	
第30回	実践(実習)【添削】		作品のまとめ・総仕上げ (自分の作品の展示紹介)				試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品	○		○		◎		40	不可(E):59点以下
演習	○		○		◎		20	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

2020年度 シラバス

科目名	小動物飼育学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に注意すべき事項を学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。							
授業の一般目標	1. 本校での小動物飼育について学ぶ。 ①食性の違いを説明できる。 ②一般的に知られている愛玩動物(小動物)を適正な飼育方法で飼育できる。 ・ウサギ、ハムスター、モルモット、チンチラ ・フェレット、ハリネズミ ・小鳥(セキセイインコ等) 2. 飼育での注意点を知る。 3. 学校飼育動物のQOLの向上を図る。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	主に本校で飼養している小動物についての特徴・食性・飼養方法・取り扱い方法の説明ができる。							
□ 思考・判断の観点	主に本校で飼養している小動物について、動物達が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等の正しく説明ができる。							
□ 関心・意欲の観点	小動物の正しい飼養方法・取り扱い方法を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
□ 態度の観点	小動物の飼養方法・取り扱い方法に基づき、正しい飼養環境作り、適正な飼養管理、取り扱いを行うことができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、本校で飼養している小動物達を健康に飼養管理ができる。 日常管理を行うとともに、何か問題点がないかの眼識を養い、観察力を付ける。								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	授業開始について 小動物飼育実習概論		授業の必要性・概要・目標・目的についての説明・進め方 授業の目的を知り、飼育に活かす			この授業の流れに ついての説明		
第2回	小動物(エキゾチックアニマル)とは？		小動物(エキゾチックアニマル)とはどのような動物をいうか説明できる					
第3回	本校における小動物飼育の流れ 飼育時の注意点		本校の小動物飼育の流れ・注意点を知り、それを守りながら飼育ができる					
第4回	ウサギの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のウサギの生態・習性を知り、本校におけるウサギの飼育方法を守って飼育ができる					
第5回	ハムスターの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のハムスターの生態・習性を知り、本校におけるハムスターの飼育方法を守って飼育ができる					
第6回	モルモットの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のモルモットの生態・習性を知り、本校におけるモルモットの飼育方法を守って飼育ができる					
第7回	チンチラの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のチンチラの生態・習性を知り、本校におけるチンチラの飼育方法を守って飼育ができる					
第8回	フェレットの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のフェレットの生態・習性を知り、本校におけるフェレットの飼育方法を守って飼育ができる					
第9回	ハリネズミの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のハリネズミの生態・習性を知り、本校におけるハリネズミの飼育方法を守って飼育ができる					
第10回	セキセイインコの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のセキセイインコの生態・習性を知り、本校におけるセキセイインコの飼育方法を守って飼育ができる					
第11回	ネコの飼育方法		飼育するにあたり、必要最低限のネコの生態・習性を知り、本校におけるネコの飼育方法を守って飼育ができる					
第12回	終生飼育を考える① 《グループワーク》		この授業を受けて、考えたこと感じたことをグループ単位で意見交換し、今後の動物飼育に活かすことができる					
第13回	終生飼育を考える② 《グループワーク》		前回の授業にて、グループ内でまとめた意見をクラス単位で発表し、今後の動物飼育に活かすことができる					
第14回	前期振り返り／前期末試験		前期振り返り後、前期末試験(筆記試験)(50分)			単位認定試験		
第15回	試験振り返り(解説)		試験問題解説			試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	基礎看護学			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。 必要最低限の看護知識・応急処置法を身につける。							
授業の一般目標	動物が緊急事態に陥った時に最低限の応急処置が行える。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンパニオンアニマルの新・健康管理学							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	犬・猫の必要最低限な看護知識の説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
☐ 関心・意欲の観点	犬・猫の基本的な看護知識を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
☐ 態度の観点	基本な看護知識を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、危険予測や応急処置ができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、犬・猫の日常健康管理が行え、非常事態の早期発見と的確な応急処置が行える。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	授業開始について バイタルサイン①		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 バイタルサインとは 【 T(体温) P(脈拍) 】					
第2回	バイタルサイン②		バイタルサインとは 【 R(呼吸) 】					
第3回	バイタルサイン③		バイタルサイン (CRT・粘膜色)					
第4回	応急処置対応①		心肺蘇生 A(気道確保) B(人工呼吸) C(循環)					
第5回	応急処置対応②		交通事故					
第6回	応急処置対応③		輸送について 創傷の種類と手当て					
第7回	応急処置対応④		止血方法・骨折の種類と手当て					
第8回	応急処置対応⑤		ショック・ケイレン発作、眼球突出、熱中症の手当て					
第9回	予防医学①		ワクチンについて①(犬)					
第10回	予防医学②		ワクチンについて②(狂犬病・猫)					
第11回	予防医学③		フィラリア・ノミ・マダニについて					
第12回	予防医学④		避妊手術・去勢手術					
第13回	予防医学⑤		日常のケアで防げる疾病・ケガ				試験範囲説明	
第14回	振り返り授業・試験実施		受験前の振り返り、受験				単位認定試験	
第15回	試験問題の解答、解説		試験問題の答え合わせと解説				試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	茂田 彩也夏			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/shigeta/			